



クラウドファンディング
コロナ禍の発達障がいの子どもや家族の笑顔と未来のため C F 開始
-発達障がいの子ども達へコロナ禍のサポートと未来に繋がるシステム構築を-
「READYFOR」にて500万円を目標に8月23日（月）から寄付募集開始

❖ 概要

大阪大学連合小児発達学研究所附属子どものこころの分子統御機構研究センターは、8月23日からクラウドファンディングサービス「READYFOR」にて500万円を第一目標にクラウドファンディングを開始します。集まった寄付金によって、発達障がいに関わる以下の2つを行いたいと考えています。

- ① コロナ禍で困っている発達障がいの子どもたち・養育者のためのサポートブックを作る
- ② 未だに原因が解明されていない発達障がいの原因を明らかにし、治療法を開発していく研究に必要な、バイオリソース・データ活用システムを構築する

コロナ禍で外出が制限され、いつもの日常生活が過ごせないことにより問題行動が増えてしまう発達障がい児や家族のストレスを少しでも軽減できるよう、生活の中で活用していただけるその他の情報とともにまとめてサポートブックを作成します。一人でも一家族でも多くの皆さんに無料で届け、少しでも困りごとを減らす助けにさせていただくことを目指します。

また、未だその大部分で原因がはっきりわかっていない発達障がいについての研究を進展させるために、発達障がいの症状や患者さんからご提供いただいた血液をはじめとする試料のデータを国内の研究者が広く活用でき、発達障がい研究を大きく前進させるのに役立つデータベースを構築します。これによって発達障がいの原因の解明や支援法、治療法の開発のチャンスを広げることを目指しています。

今回のクラウドファンディングプロジェクトによる資金調達が実現すれば、発達障がいを持つ子どもたちやご家族にすぐに役立つ情報をお手元に届けることができるだけでなく、発達障がいのお子さんやご家族がより一層明るく幸せな未来を過ごすために、貢献できると考えています。

つきましては、本クラウドファンディングの積極的なご周知とご取材をお願い致します。

❖ クラウドファンディング概要 ※詳細は次ページ参照

【日 時】 8月23日（月）から10月20日（水）23時まで

【プロジェクト代表者】 谷池雅子 大阪大学大学院連合小児発達学研究所附属子どものこころの分子統御機構研究センター長/教授

【プロジェクトタイトル】 発達障がいの子どもたちに、コロナ禍のサポートと未来に繋がる研究を

【URL】 READYFOR サイトページ

<https://readyfor.jp/projects/kodomo-kokoro>

【目標金額】 500万円（第二目標 1000万円）

寄付金額 0円 目標金額 5,000,000円
寄付者 残り 0人 58日
最初の寄付者になりませんか？
プロジェクトの寄付にすすむ



❖ プロジェクト詳細

私たち、「子どものこころの分子統御機構研究センター」は、発達障がいをはじめとする子どものこころの発達とその問題について、医学・心理学・福祉・教育など様々な分野の専門家が集まり、「子どものこころの健やかな発達」のために、研究を行ったり、専門家養成を行う多分野融合のユニークな研究センターです。今回、発達障がいに関わる以下の目的のため、クラウドファンディングを行うことにしました。

1. コロナ禍で困っている発達障がいの子どもたち・養育者のためのサポートブックを作る

自閉スペクトラム症（ASD）や注意欠如多動症（ADHD）などの発達障がいは、10人～15人に一人と言われています。

コロナ禍では、緊急事態宣言による外出自粛の影響で発達障がいの子どもたち、家族のストレスが高くなっていることが明らかになっています。

発達障がいの子どもたちの中には、環境の変化に対して敏感で、外出や行動が制限され自分のやりたいことができなかつたり、毎日やっていた日常のルーチンが崩れてしまうことになり、予測が持てなくて不安やイライラ、癇癪を起こすなど、調子を崩してしまうお子さんがいます。



災害時やコロナ禍において、子どもたちやご家族に役に立つ情報を！

私たちは、このコロナ禍で自宅で過ごす時間が増え、困っている発達障がいのお子さんやご家族のために、自宅での過ごし方のコツや日常生活の中での困りごとへの対処法、お子さんの発達が気になったときの相談先の情報などをまとめて、**子どもや養育者のみなさんが困った時にすぐに役立てていただけるサポートブックを作成し、病院や療育施設、市町村の保健センターや教育センターなどで無料配布をします。**



2. 未だに原因が解明されていない発達障がいの原因を明らかにし、治療法を開発していく研究に必要なバイオリソース・データ活用システムの構築

ASD や ADHD などの発達障がいの原因は、大部分はまだ不明であり、根本的な治療法はありません。様々な症状を示す発達障がいの原因を解明するためには、研究者たちが協力して大きなバイオリソースやデータベースを作り、みんなでこれを活用して原因を明らかにしていくのが効率的な方法です。このため、大阪大学子どものこころの分子統御機構研究センターでは、ブレインバンク・バイオリソース部門を立ち上げました。私たちは今、患者さんの臨床症状や治療内容、治療経過などについての情報を蓄積する臨床レジストリを作って稼働を始めています。一方、患者さんやご家族のご協力をいただいて患者さん由来の試料（血液など）を収集し、研究に使用できるバイオリソースの構築も開始しています。このバイオリソースを管理して実際に活用するために必要な、臨床レジストリとリンクしたデータベースシステムを作って、広く日本中の研究者に活用していただき、発達障がいの原因究明を加速させるお手伝いをするために、クラウドファンディングで集めた資金を活用させていただきたいと考えています。



目標を達成した後には、「発達障がいの子どもと家族のサポートブック」の作成送付の範囲を広げるとともに、成人の精神神経疾患についての臨床情報に関するデータベースの構築整備、ご提供いただいた脳の組織を保存管理するブレインバンクのデータベースシステムの構築と拡充を目指します。